

みんなが住み続けられる
金町第一団地を！

近隣社会と共存できる
金町第一団地を！

金町第一団地

自治会へのご意見は、メールアドレス：
kanamachidaiichi@yahoo.co.jp

No385号

2019年6月1日

発行 金町第一団地自治会

責任者 田中 一郎

連絡先 電話 5699-8341

第十六回夏祭りの準備が

始まっています！

今年の夏祭りは、八月二十四日(土)十五時より開催いたします。

四月二十二日、香川事務局長が葛飾総合高校を訪れ、授業の一環として行っているボランティアを三十名、夏祭りに派遣してほしいと要請しました。合わせて、夏祭り幕開けの演奏も葛飾総合高校のブラスバンド部にお願いしようとする模索中です。昨年この紙面十月号で、学校側から寄せられた生徒たちのボランティア体験感想文をすべて掲載させていただきました。殆どの生徒が夏祭りの運営側として参加するのは初めての経験だったと新鮮な驚きとともに語ってくれています。自治会としても、このような感性豊かな生徒たちと共に夏祭りを運営できたことを誇りに思うと同時に、夏祭りに参加してくる多くの子供たちの期待に背かないよう身の引き締まる思いです。ゲームコーナーの景品などを担当してくれる松戸市場の「お菓子屋さん」も、すでに

準備に入っています。様々なレンタル用品や模擬店の材料も発注を待つのみです。昨年悩まされた飲み物を冷やす氷は、結局五十五貫をつぎ込んでしまいました。今年は大きなバケツを利用するなどして、改善をしていきたいと考えています。

最後に改めてお願いの文書を配布いたしますが、居住者の皆さんのお手伝い、よろしくお願いいたします。

原田小避難所運営会議について

表記の団体は、大災害の時、避難を余儀なくされる事態は遠からず発生するので、この近辺十自治町会で原田小を避難所とする運営会議が組織されました。

金町第一団地自治会も表記の団体の一員としてその運営に参加しています。すでにご案内のように、鉄筋コンクリートの集合住宅にお住いの自治町会には、原田小には直接避難せず、住居内にとどまって身の安全を図ることになっています。表記の避難所は、自宅を

被災して自宅で生活できなくなった人を収容する施設です。

災害時は多くの人の力が必要です。もちろん、収容者にも状態に応じて力を借りる必要があります。それだけに、避難所を運営するには、前もってのレクチャー、知識も求められます。この近辺の十自治町会が、それこそ力を合わせなければ避難所を運営していくことができません。

今避難所運営会議では、いざというときの備えを体に刻み付けるため、訓練を積み上げていきます。同時にこの運営会議を日常的に機能させていくためにも、一自治町会議当たり一百万位の資金を拠出することになりました。

九月八日(日)十時からの

防災訓練について

この訓練の目玉であった起震車の申し込みは、三自治町会の抽選で、当団地は落選となりました。従って、急きよスタンドパイプの訓練に切り替えました。道路にある採水口からスタンド

パイプで直接飲み水を取り出す訓練です。消火の際にも使用するもので大切な訓練となります。当日は、①スタンバイパイプ、②初期消火訓練、③AEDを使用した蘇生回復訓練の順番となります。改めて九月号ニュースでお知らせいたしますのでよろしくお願いいたします。

新年度を契機に自治会に入会し

てください！

近年の自治会行事や自治会からの様々な支援要請に、会員、非会員を問わず多くの居住者からご協力いただいていることに感謝申し上げます。

ご案内の通り、金町第一団地自治会は居住者の半数近くで構成されていますが、この団地唯一の自治の組織です。四年前に完成した、四号棟北側公園の防球ネット設置は、長年にわたって都市機構に要請を継続していたものです。四号棟の車所有者をヒヤヒヤさせたこの問題も、やっと解決の日の目を見ることができました。一昨年六月

に完成した放送設備は、緊急時に自治会が要求して実現したものです。

自治会はこのように、居住者の要望に対しては、役員会に必ず計って運営しているつもりです。ご遠慮なく声をおかけください。同時に、二十三区自治協や近隣町会との関係でも、運営に参加して意見を述べ、居住者の声を反映するよう常に心がけています。

自治会が年間を通じて色々な行事を計画するのも、究極的には居住者同士の横のつながりを緻密にするためだといっても過言ではありません。いつ起きるかわからない自然災害ですが、そのことが必ず役に立つと信じて疑わないからです。

災害で頼れるのは、自治会のつ

ながり！

阪神淡路大震災の復興の記録を見ると、自治町会がしっかりしているところほど立ち直りが早かったといわれています。一人暮らしであるとか、高齢者であるとか、ある程度隣人の家庭

の状況に通じていることが、いざというときに助け合いにつながっていることを物語っています。金町第一団地は三百世帯の小さな団地ですが、自治会は夏祭り、敬老の集い、餅つき交流会などに取り組み、親睦の輪を広げるため活動しています。そうした行事を支えているのが、会員の皆さん一人一人の自治会費なのです。

六月九日(日)、自治会加入のお願いで、非会員宅を訪問させていただきましたので、その節はよろしくお願いいたします。

編集後記

当団地自治会として、最大のイベントである第十六回夏祭りの取り組みがスタートしました。夏祭りはその当初から子供たちに楽しんでもらうことから第一に取り組み、今までにどれほど多くの居住者が関わってきたとか、それが営々と受け継がれ、子供たちの笑顔に接することが一番の喜びであり、励ましました。

十五回の歴史が示すように、子供たちの成長とともに私たちも年を重ね、いつしか担い手不足に悩むようになりました。こうした時に地域包括支援センターの皆さんや、法人として会員になつてくれた「清風会」の皆さんの若い力が自治会行事を支え、継続させる大きな力となりました。また新たに、一昨年からの葛飾総合高校の生徒たち三十名も加わり、祭りの雰囲気を一変させました。改めて、生徒たちの感想文を読み返してみました。その中には祭りを通じてこども達が大切にされると感じ、自らもボランティアに参加して楽しく、良かったという感想が多くありました。

高校生の夏祭りを支える思いに共感し、こども達の楽しい思いで作り、自治会もより一層頑張りたいものです。そして、高校生たちの爽やかなボランティア精神は、永い目で見れば祭りに参加したこども達にも浸透し、担い手の連鎖に繋がってくればこんな嬉しいことはありません。